

競技上の注意

群馬県中体連卓球部

競技者は、各地区から選ばれた代表であることを誇りに、スポーツマンシップに則り、ルールを遵守し、中学生らしい身だしなみ（まゆ・染毛・ピアス・ネックレス・アクセサリ等をしない）のもとに、正々堂々と競技して下さい。

【ルール】

現行の日本卓球ルールを適用し実施します。40mmホワイトボール（試合球）を使用します。

・試合

団体戦、個人戦ともに5ゲームマッチで行います。

団体戦のトーナメントは番手に関係なくどちらかが3点取った時点で試合を終了します。なお、終了していないマッチについてはスコアに含めません。リーグ戦については3点先取方式とします。

・サービス

- ① オープンハンド（指にかからぬよう手のひらにボールをのせる）で静止してから、ボールをのせた手が台の下に沈むことなく、指にかけずに16cm以上に垂直方向に投げ上げ（最近巻き込みサーブで、自分の体に向けて投げ上げる選手が目立ちます。また、手からボールが離れた位置から16cm以上上げる。）、落下してきたところをエンドラインよりも後方の位置でインパクトして下さい。
- ② サービスの開始（オープンハンドで静止）からインパクトまでの瞬間が、常にレシーバーから見えるようにして下さい。
- ③ 審判部の方で、疑わしいサービスには注意を、明らかにミスとわかるサービスは失点とします。

・タオルの使用：タオルの使用は6本ごとのサービスチェンジの時のみです。

・抗議：主審または副審による事実の判定には抗議できません。個人戦では競技者本人であり、団体戦ではチームの監督のみです。

・促進ルール（本部より指示する場合もある）：1ゲームで10分経過し、競技者（組）双方の得点の合計が18点（9-9、8-10、10-8）以上に達していない場合、促進ルールを適用します。ただし、競技者（組）双方の合意があればいつでも適用できます。

・タイムアウト：1マッチに1回、ラリーとラリーの間に1分以内の「タイムアウト」を要求できます。タイムアウトは、主審に対して口頭および手で「T」を示し要求して下さい。同時に両者が申し出た時は1分のみです。

【進行および審判】

原則タイムテーブルにより進行されますが、状況によりコートや試合開始時間を変更する場合があります。

団体戦…直接相互オーダー交換方式で行います。勝利したチームの代表者は速やかに結果を本部に提出して下さい。ベンチ入りできる選手は10名までです。

個人戦…初戦の審判は次にその台で試合を行う選手です。その後は敗者審判です。敗者はコートに残り、勝者は結果を本部に速やかに出して、次の試合の対戦表を敗者審判に渡して下さい。ただし、試合によっては相互審判をお願いすることもあります。

※ 主審はジェスチャーをはっきりとして下さい。

※ 副審はカウンターを胸の高さにし、6ポイントごとに90度回転して下さい。

【選手】

・あいさつ：試合開始前と終了後にしっかりとあいさつをして下さい。

・服装について：県大会は公式戦ですので、団体戦のユニフォームはチームで揃えてください。（同じユニフォームを着用していない選手は、ベンチには入れません。）またショーツ・ゼッケン等も含め、身だしなみをしっかり整えて下さい。また、ゼッケンピンについては、市販のものでデザインされたものは可としますが、自分で手を加えたものなどは禁止とします。

- ・身なり：校訓等、チームのきまりに則ってください。
- ・ラケットとラバー：ゲーム間はラケットを卓球台（テーブル）の上に置いて下さい。ラバーの接着剤は公認のシートか水溶性の接着剤を使用して下さい（無作為抽出でラケット検査を実施することもあります）。ラバーは4mmを超えないように注意して下さい。
- ・レットの判断：サーブがネットに触れたと判断した場合は、手で取るのではなく、アピールしながらラリーを続けてください。審判の判断前に取ってしまった場合、失点になることがあります。
- ・バットマナーの禁止：競技者、監督が相手の競技者に対して不当な影響を与えたり、観客に不快感を与えるなど、ゲームの評判を落とすような癖や態度（相手の選手を威嚇する、故意にボールを蹴ったり競技領域外に打って出す、卓球台やフェンスを乱暴に扱う）、あるいは無断でラケットを交換、競技役員の指示を無視する等が見られた場合、警告・相手のポイント・退場・失格などのペナルティーが課せられます。遅延行為もバットマナーです。（タオルの使用・ポイント間やゲーム間・あいさつの後にベンチに戻る・ノートへの記入等。）
- ・その他：飲み物で床が濡れないようにして下さい。雑巾を使う場合は、卓球台のネットぎわ横にビニールを置き、その上に敷いて下さい。使用する際は、原則としてタオルの使用に準じます。
- ・怪我の場合は最長10分の時間を設けますが、それを超える場合は審判長判断で、選手の健康を配慮しての棄権となることがあります。なお、鼻血の場合は出血が止まるまで中断します。（出血が長時間にわたって止まらない場合は、選手の安全を配慮して棄権になる場合もあります。）足がつったなど、不慮の事故のような怪我ではない場合は適応されません。
- ・ルールに則った応援の遵守：応援は節度を守り、アドバイスととられるような声かけはしないで下さい。

【ベンチ】

- ・アドバイス：ゲーム間のアドバイス・タイムアウトは1分以内とし、それ以外にアドバイスは認めません。原則としてプレー領域でアドバイスをして下さい。（高校生以下の大会では今まで通りであり、ラリー中を除いていつでもアドバイスを受けることができる、というルールは適用されません。）
- ・ベンチメンバーおよびアドバイザー：団体戦でベンチに入ることができるのは、当該チームの申込書に記載された監督・アドバイザーの2名以内と登録メンバー選手10名のみです。個人戦のアドバイザーは、当該チームの申込書に記載された監督・アドバイザーの1名のみです。ただし、1名の監督・アドバイザーが複数名の選手を抱えベンチに入る可能性がある場合は、ベンチを空席にしておき移動してください。（ただし選手1名に対して、必ず1名のみアドバイザーとします。）
- ※ 外部指導者がアドバイザーに入る場合についても、当該校の職員と同様の扱いとなりました。
- ※ 挨拶後はベンチにもどらない。試合終了後の相手ベンチに対する挨拶は不要です。
- ※ フロアに降りる場合の服装については、白以外の服装とします。監督、アドバイザーも必ず白以外の服装をお願いします。
- ※ マッチをさかのぼっての注意はありませんが、今までは大丈夫だったから今回も大丈夫だというわけではありません。注意を受けた段階で、その注意に従うよう協力をお願いします。
- ・うちわなどの音が鳴るものでの応援を禁止します。

【応援席】

- ・観覧席からのアドバイスはできません。退場となる場合がありますのでご注意ください。また、審判の裁定を覆させるような発言もしないでください。
- ・フラッシュ撮影は禁止します。
- ・相手や相手ベンチを不快にさせたり、周りに影響を与えたりするような大きな声については、審判部から注意を与えることもあります。
- ・応援席での応援において、うちわやバルーンなどの音が鳴るものでの応援は禁止します。